

平成 28 年度第 3 回熊野市総合教育会議会議録

1. 日 時 平成 29 年 2 月 21 日（火） 午後 1 時 30 分から
2. 場 所 文化交流センター 交流ホール
3. 出席者 熊野市長 河上敢二
熊野市教育委員会
倉本教育長 大久保委員、糸川委員、高見委員、北野委員
4. 事務局関係
教育委員会事務局
林総務課長、楠学校教育課長、杉本社会教育課長
太田総務課長補佐、小瀬総務課庶務係長
市長公室
大西市長公室長
総務課
清嶺地総務課長
5. 事 項
(1) について

林総務課長 定刻になりましたので、ただいまから平成 28 年度第 3 回熊野市総合教育会議を開催いたします。お手元の事項書に沿って進めさせていただきます。本日の司会進行を務めさせていただきます、教育委員会総務課長の林でございます。よろしく願いいたします。

総合教育会議開催にあたりまして、河上市長から開催のご挨拶をお願いいたします。

河上市長 教育委員の皆様にはお忙しい中、平成 28 年度最後の総合教育会議にご出席賜り誠にありがとうございます。

また、日頃より当市の教育行政の推進に対し、ご尽力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

今年度、第 3 回目の開催となりますが、第 1 回目の会議におきましては、今年度の重点施策を 6 項目としそれぞれの指標を設定させていただきました。また、第 2 回目の会議では、重点施策 6 項目について、9 月末までの取組状況と今後の方向性をご報告させていただいてございます。

本日の会議におきましては、第 1 回目の会議でお示しました、

重点施策ごとの指標について、現時点での達成状況と、それぞれの事業における成果と課題についてご報告させていただきます。

最終的な取組の結果につきましては、来年度の総合教育会議でのご報告となりますが、すでに取組が終了しているものもございいますので、ぜひ、来年度にむけて、忌憚のないご意見を頂戴できればと考えております。

今年度は「こどもは宝・未来への希望基金」を設置し、子育て支援として、通学費の補助や学校給食費の補助など、幅広く支援を行っているところでございます。

学力向上やいじめの問題など課題の多くある中で、来年度も継続して、子ども達が心身ともに健やかな成長ができる環境づくりをはじめ、市民の皆様の豊かな学びのための環境づくりを行ってまいりたいと考えておりますので、委員の皆様のご理解ご協力を賜りますようお願いを申し上げてご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

林総務課長

ありがとうございました。

お手元に配布の資料の確認をさせていただきます。本日の事項書と平成28年度第3回熊野市総合教育会議、資料の3種類となっております。よろしいでしょうか。

それでは、事項書2の(1)平成28年度主な重点施策の進捗状況と現時点の成果・課題について移らせていただきます。

平成28年5月23日に『第1回熊野市総合教育会議』を開催し、6つの重点施策と28の主な取組内容について、それぞれ協議をさせていただきました。また、10月27日に『第2回熊野市総合教育会議』を開催し9月30日までの取組状況と10月1日以降の今後の取組について説明・協議をさせていただきました。

今年度も残り少なくなってきましたが、1月31日までの取組状況や現時点での達成状況及び成果・課題について説明をさせていただきます。1ページの重点施策1 学力向上の推進についてですが、取組事業が6事業4ページとなりますので、1ページごとにご質問やご意見等をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。指標として、平成28年度全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙において、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した割合が、全国平均を上回りますとしていて、結果、小中学校において、全ての項目で全国平均を上回りました。現時点で指標は達成をしました。資料の1ページから3ページも併せてご覧ください。

取組事業名、学力向上支援事業で、10月1日以降1月31日までの取組状況として、指定校4校（小学校3校・中学校1校）において、

それぞれ2回から4回合計12回外部講師から指導助言を受け授業方法の工夫改善を行い、また公開授業研究発表会を開催し研修成果を各小中学校に発信しました。

以上が、重点施策1のうち、学力向上支援事業の説明です。ご質問やご意見等ございましたらよろしく申し上げます。

河上市長

個人的な思いかも知れませんが、めざす姿の最初の部分の児童生徒が授業改善を実感していると。この点については、実際に学力が向上したかとは別なことで、これだけで良いとは十分に言えないんじゃないかと思います。実際の結果は後でできるかもしれないですが、とりあえず取組の状況について子どもたちが以前よりも授業が良くなったということが評価はしなくてはいけないですが、結果として残っているとは別なことで、そこは注意して考えないといけないと思います。

糸川委員

全国平均を上回り、現時点では指標については達成したということで、小学校のめあて・ねらいのパーセンテージと振り返る活動をよく行っていた、についてのパーセンテージの差が少ないですけども、中学生になってからだと学習内容を振り返る活動をよく行っていたというパーセンテージが全国平均を上回ってます。実際的人数的には、達成率が低いと思います。なので、ここで全国平均を上回るっていうことを目的としないで、パーセンテージを100%に近づけることを今後目標にされたら良いのではないかなと思います。

楠学校教育課長

本年度の重点施策の中の学力向上の推進ということで、初年度では全国平均が指標の基礎となっております。今後、全国平均ではなく、各学校においてパーセンテージを上げて行く方向で考えていきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

林総務課長

その他何かご意見等ございませんでしょうか。

倉本教育長

学習内容の振り返りをなぜ行うかということなんですが、子どもたちがこの時間に何を勉強するか、どういうことを学ぶかということ意識したうえで授業に臨む。そして、授業が終わったときに、今日こんなことを勉強したねということ振り返ることによって、学習内容の定着というものを進め、深めていくことが学力向上の一つの大きなポイントだということで、市教育委員会では、めあて振り返りの徹底を各学校と連携して、強く進めてまいりました。その結果、学力学習状況調査やみえスタディチェックの結果にも反映されつつあります。今後も続けて行こうと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

林総務課長

ありがとうございます。その他ございませんか。

ないようですので次に移らせていただきます。2 ページの学力向上推進研修事業で、資料は 3 ページから 4 ページをお願いします。10 月 1 日以降 1 月 31 日までの取組状況として、研修会を 1 回開催し先進地視察を行いました。成果としては、全国学力学習状況調査結果に改善が見られ、先進校視察として、いなべ市立治田小学校を視察し、参加した教員が多くの刺激と示唆を受けました。課題としては、より多くの教員の参加を可能にするため日程調整等があげられます。

以上が、重点施策 1 のうち、学力向上推進研修事業の説明です。ご質問やご意見等ございましたらよろしくをお願いします。

河上市長

現時点の成果と課題の 2 つ目の平成 28 年度の全国学力・学習状況調査結果に改善が見られた、というところで、こちらについては結果もいただいて発表もされたところなのですが、その時思いつかなかったんですが、改善の結果についての統計的な有意差は検証されているんですか。人数が多いので、統計的には大丈夫だと思うんですが。

倉本教育長

平均値の信頼度、信頼性ということから言えば、母数が非常に小さいです。なので、例えば 5 名の学級であれば上下が年によって動いてしまいます。ですから、統計的な面からすれば、信頼性があるということでは言い切れないものとなっております。

母数があまりにも小さいので、年度によって一喜一憂はしないことにしています。また、教育委員会としては、どんな結果を受けてもやり続けることと決めています。校長会の際に、各学校に対しては、向上した時もこれで喜ぶのではなく、これからの取組に活用していくということを指示しております。

河上市長

学校単位で言うと、統計的には必ずしも信頼度が 100%確保されていないと思うんですが、学年全体で見た時にはどうなのでしょう。

倉本教育長

例えば、小学校 6 年生で学力学習状況調査を受けます。そして、中学校 3 年生でもその子どもたちは、同じ学力学習状況調査に臨むのですが、小学校の部分で課題の大きかったものが、中学校 3 年生で受けた時は、その課題は小さくなるという傾向が顕著に表れております。

河上市長

目標を高く持ってあきらめないで継続してやっていただきたいと思います。

糸川委員

先進校視察についてなんですが、参加した教員の満足度が高く、多くの刺激と示唆を受けましたということで、今後より多くの教員の参加を可能にするための日程調整等が課題ですということなんですけども、学力先進校の視察は、たいへん良いことだと思いますし、

先生方のモチベーションアップにもつながることだと思います。参加することが目的ではなく、そこで得たことをいかに生かすかということが大切なことだと思います。その時に感じた授業の工夫や改善を先生方が自分の授業でどのように行ってみたか。その結果、どうクラスが変わったかとか、どのような学力アップにつながったか、という報告会を学校内で行って、その時に感じてきたやる気とか意欲が低下しないように、先生方の一時的なものに終わらせないように継続的な取組が大事だと思います。

楠学校教育課長

糸川委員のおっしゃる通りだと思います。全校の先生が参加してもらうことがいいと思うんですが、各学校の代表者が行くことになっています。その時に得た知見や学校のシステムなどを学校に帰っていかに還元できるかということが大事だと思います。教育委員会としましても視察で得たものを校内研修等で各学校に還元しております。学校に応じてシステムなどの良い部分を取り入れていただければと考えています。今後も、先進校の視察で得たものを各学校に還元するというのを大切に進めていきたいと思っています。

林総務課長

その他ございませんか。

なければ次に 3 ページの取組事業名、学力向上特別支援事業に進みます。資料は 4 ページから 5 ページをご覧ください。事業内容として、指定校である木本中学校での「学びの共同体」として実践的な取組を進め、10 月 1 日以降 1 月 31 日までの取組状況として、外部講師を招いての 2 回の公開授業研究会を開催しました。成果として、「学びの共同体」という共通の理念のもと、全教師による授業公開、相互の授業参観、事前・事後の研修も行っています。学び合う機会に恵まれ、指導力も高まりつつあります。課題としては、経験の浅い教師も多く、発言の取り上げ方やつなぎかた、的確な助言や問題の提示の仕方などまだまだ指導力の差が見られます。

次に取組事業名、地域未来塾事業で、資料は 6 ページから 8 ページをご覧ください。事業内容は、小学校 4～6 年生の希望者を対象に、夏休みに学習会を開催します。講師として、この地域出身の大学生や教員の O B 等が学習支援を行います。夏休みだけの予定でしたが、児童の意欲の高まりも見られたことから、冬休みにも 4 日間開催し延べ 57 人の参加あり、学力向上のきっかけづくりを図ることができました。参加した子どもたちからは、「楽しかった」という声が多く聞かれました。課題としては、一人でも多くの児童の参加をめざし、より一層の周知を図っていく必要があります。

以上が、重点施策 1 のうち、学力向上特別支援事業及び地域未来

塾事業の説明です。ご質問やご意見等ございましたらよろしく願
いします。

北野委員 地域未来塾事業なんです、人数はお示しいただいた通りわかる
んですが、全体として何%の児童がこの事業に参加しておられるん
ですか。

楠学校教育課長 4年生が129名、5年生が122名、6年生が113名で合計364名と
なり、そのうちの延べになります。231名が参加しております。

倉本教育長 延べ回数ですので、実人数としてはもっと少ないです。教育委員
会といたしましては、学力に課題のある子ども、学習意欲がわか
ない子どもたちにできるだけ参加していただいて、学ぶ楽しさとか分
かった時の喜びを味合わせさせたいという目的もあるのですが、総
じて来ていただく児童は、ある程度学力のある児童です。また、夏
休みでもあるので、スポーツ少年団であったり、他の社会スポーツ、
習い事であるとか、そういう兼ね合いがありますので、今後学力に
課題のある児童の参加が出来るように、または来ていただけるよう
にもって行かなければならないと思っております。

河上市長 地域未来塾の参加の実人数が少ないということですが、せつかく
この事業をやられているので、スポーツ少年団とかバッティングす
るのはもったいないと思います。スポーツ少年団とかあることを前
提にして、各学校で事前に子どもたちにスケジュールを聞いて、参
加できる一番最大人数の時に実施するように工夫をしていただけた
ら。このまま子どもたちに呼びかけても、子どもたちに日程の調整
はできないので。来年度は、各学校で子どもたちにスケジュールを
聞いて参加していただく調整をしてもらう努力が必要だと思いま
す。できる範囲で結構なので、なるべく多くの子に連れて
いただくように、努力をしていただきたいと思います。

林総務課長 その他何かご意見等ございましたら。

次に4ページをお願いします。重点施策1の最後になります。取
組事業名、グローバル体験事業で、資料は8ページから9ページを
ご覧下さい。事業内容は、英語を楽しく体験させることにより、グ
ローバル社会に対応できる児童生徒の育成をめざします。10月1日
以降1月31日までの取組状況として、12月11日 ウィンター・フェ
スティバル開催し134人が参加をしました。成果としまして、各イ
ベントを通して、多くの子に連れて
いただくように、努力をしていただきたいと思います。

以上が、重点施策 1 のうち、グローバル体験事業の説明です。ご質問やご意見等ございましたらよろしくお願ひします。

大久保委員

このグローバル体験事業はたいへん素晴らしい事業だと思うんですが、先ほど説明にもありましたように、やはり参加者が固定化してくると思うんですね。これは、未来塾とか他の事業でもたぶん一緒なのではないかと思うんです。これはやっぱり、今の子どもたちが忙しすぎるというか、スポーツ少年団であったり、塾や習い事で。子どもたちが暇がありそうで暇がないというか、そういう事もあると思います。そういう意味で、できるだけ各学校への働きかけも大事だし、日程の調整も十分考慮していただけたらと思います。

楠学校教育課長

はい、ありがとうございます。いろんな事業で参加人数が課題になってきます。やはり来年度も含めて工夫が必要と思います。先ほど、市長が言われたように、子どもたちが参加してもらえような時期や日程とか学校と連携して実施して行きたいと考えております。

林総務課長

その他何かございませんでしょうか。

河上市長

小学校は今、英語の授業はあるんですか。

楠学校教育課長

5、6年生で授業をしています。

倉本教育長

授業教科ではなく、外国語活動で実施しています。新しい学習指導要領に変わった段階で3年生4年生が必修化、5年生6年生で教科化となります。

河上市長

この事業は、英語に触れる機会を増やして興味を持たせるということが重点だと思うんですが、この後、各学校で子どもたちが自ら英語を学びたいという時に、何か手段はあるんでしょうか。

倉本教育長

手段はありません。例えば家族で英会話に親しんでいる家庭は別として、子どもたちが、英語や外国の文化に触れることは、ALTが学校訪問してくれることが主な機会となります。あとは、外国について、社会科などで触れることはありますが、英語については、今後、必修化、教科化に至る中で教員の英語力や指導力が問われ、必要となって来ます。教員採用試験等にもそういった扱いがなされております。

河上市長

少なくとも、この交流センターの図書館の中に小学生でも自分で英語が学べるような教材を今年度予算で図書購入費の中で買えるものがあると思いますので、一工夫していただきたいと思います。

大久保委員

ALTは今、小学校へ年間1校あたり何回行っているんですか。

楠学校教育課長

各学校へ月に2回から3回程度行っています。

林総務課長

その他ございませんでしょうか。

続きまして、5 ページの重点施策 2 豊かな心の育成に移ります。

資料の 10 ページも併せてご覧ください。ここからは、重点施策ごとにご質問やご意見を頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。指標として、いじめ件数 0 件、現時点での達成状況は、いじめ件数 16 件ということで達成できませんでした。

重点施策の主な取組事業として、いじめ防止対策推進条例の制定につきまして、本年 2 月議会に条例案を提出します。

次に、取組事業名、いじめ防止基本方針の見直しにつきまして、現時点において、各学校において見直しを行い、いじめ防止対応の充実を図りました。今後は、継続的な見直しが必要です。

次の、いじめ対策事業に移ります。事業内容は、小学 3 年生以上の全児童と全中学生を対象とした学級満足度調査（Q U 調査）を実施し、研修会を開催し、より良い学級・学校づくりを行います。また、定期的にいじめアンケートを実施します。10 月 1 日以降 1 月 31 日までの取組状況として、「いじめアンケート」の 2 学期分を実施、保護者及び学校評議員に対して「いじめ問題を含むアンケート」を実施しました。成果としまして、明らかな事案もあり、早期解決につなげることができ、保護者・評議員対象のアンケートでは、学校教育に活かすことができました。課題として、教職員の Q U 調査結果の効果的な活用があげられます。

次の、郷土教育の充実、事業内容は、「わたしたちの熊野市」を活用した地域学習を進めます。成果としては、熊野市についての理解と郷土への誇りと愛情を深める取り組みができました。課題として、授業のみの活用にとどまっている傾向にあることです。

以上が、重点施策 2 豊かな心の育成の説明です。ご質問やご意見等ございましたらよろしくお願い致します。

河上市長

新聞報道で見受けたんですが、全国の各都道府県別のいじめの総件数が非常に多い所と非常に少ない所がありました。新聞のコメント欄にもありましたが、多い所は本当に多いかどうか。まじめに、どんな小さなことでもいじめと定義をすれば多くなるし、その見方は、よほど注意して見ないといけないということで、大切なのは、総件数を減らさないといけない。理想としてはゼロにしないといけないということなんですが、そういう中であっても、この 16 件が、子どもの人数当たりにおいて、総体的に多いのか少ないのか。どんなレベルなのか目安として知りたいのですが。この数字は単純に多い少ないではなく、いろんな角度から捉えなければならぬんですが。子どもの人数当たりの件数というのは、調べたことはないんですか。チェックするような資料はあるんですか。

楠学校教育課長

児童生徒の人数の中で 16 件が多いのか少ないのかは、申し訳ない

ですが、調査はしていません。ただ、いじめの定義というものがありまして、心理的・物理的に心身の苦痛を感じているもの、つまり子どもたちが嫌だと思ったものをいじめと捉えて、全てを報告してもらうよう各学校にお願いをしています。

めざすところは、いじめのない学校ということで、日々取り組んでいるんですが、16件の内14件は早期解決しております。2件については、学校が見守りたいということです。

先ほど市長が言われたように、各都道府県によっていじめの件数が大きく差があります。熊野市としましては、どんな小さな案件でも出してもらい、アンテナを高くして早期対応をしていきたいと考えております。

河上市長 この16件について、特定の学校に多くなっているということはないのでしょうか。

楠学校教育課長 この16件については、特定の学校ということではないです。確かに児童生徒が多い学校はいじめの件数が多いですが、いろんな学校からいじめの事案が報告されます。

林総務課長 その他にご意見ご質問等ございませんか。

次に、7ページの重点施策3 安全で安心な学校環境づくりに移ります。資料の11ページを合わせてご覧ください。指標として、全小中学校で、学校と地域が連携した合同防災会議・避難所運営訓練等を実施しますとあり、1月末現在16校中11校で実施であり、達成できておりません。

重点施策の取組事業として、学校防災対策推進事業、防災教育の充実、各種訓練等の充実、関係部局との連携、学校防災マップづくりの推進と5つの事業を行うこととしております。

学校防災対策推進事業では、10月1日以降1月31日までの取組状況として、五郷中学校において「地域コミュニティー」を核とした防災対策」と題し研修を行いました。成果としては、知識、理解が深まり、地域との連携の重要性についても理解が深まりました。今後は、共通認識に基づき危機感を持った学校防災につなげる事が課題です。

防災教育の充実では、防災ノート等を活用しながら防災教育の充実を図ります。現時点での成果として、防災ノート等を活用することで、学校と家庭が連携した防災教育を進めることができました。今後は、学校においてより効果的な活用を進めるとともに、家庭での活用も進めていかなければなりません。

8ページの各種訓練等の充実では、学校・地域防災組織と連携します。10月1日以降1月31日までの取組状況として、新たに2校が地

域と連携した防災訓練を実施しました。地域との合同訓練については、内容等地域との協議が必要となってきます。

関係部局等との連携では、関係機関と連携しながら学校防災を推進し、関係機関との連携が深まりました。今後は、さらに連携を深める必要があります。

学校防災マップづくりの推進では、児童生徒が実際に校区内を歩いて、危険箇所等を調べ、防災マップを作成し、児童生徒の防災意識を高めます。新たに1校が防災マップを作成し、防災意識の向上を図りました。今後は、全ての小中学校で防災マップを作成する必要があります。

以上が、重点施策3 安全で安心な学校環境づくりの説明です。ご質問やご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。

河上市長

防災マップがまだ作られていない学校があるということなんですが、防災マップを子どもたちが危険箇所を調べて作るという意味は、1回作れば良いということではなくて、その学年の子どもたちが必ず小学校6年生なら6年生の間に1回作るようにしないといけないのではと思います。学年ごとに1回作らないと、子どもたちの危険箇所の発見能力が備わらないので、これは早急にかつ継続的にやるべき話かなと思いますので、努力をしていただきたいと思います。

大久保委員

各学校で防災教育がかなり進んできているように思うんですが、今は地震とか津波を重点的に取り組んでもらっていると思います。それはたいへん大事なことなんですが、これ以外にも普段の学校生活の中で、学校での安全点検もきちんとやっていただきたいと思います。それから、津波や地震を想定して、学校にいる時とか家でいる時以外でも、いつどこで起こるかも分からないので、そういうことにも対応できる防災教育に取り組んでもらえたらと思います。

楠学校教育課長

学校の安全点検は月に1度実施しております。

先ほど大久保委員が言われたように、自宅と学校との間の登下校が課題になってきます。そういった上でも、先ほど市長が言われた、防災マップの作成において、町にどういった危険箇所があるのか、身をもって実感することが大事だと思います。時間はかかりますが、防災マップ作りは続けて行きたいと思います。あと家庭の力もお借りしないとイケないということで、防災ノートは学校での活用だけではなく、家庭でも学習できるようになっていますので、家庭で活用していただくよう、取り組んでいこうと考えております。

林総務課長

他に何かございませんでしょうか。

なければ、次に、9ページの重点施策4 子どもの読書活動の推進に移ります。資料の12ページも合わせてご覧ください。指標として、

子どもの図書貸し出し利用者数が延べ 9,000 人以上、1 月末現在 8,294 人となっており達成できておりません。

重点施策の取組事業として、子どもの心づくり事業は、子どもの成長に合わせた読書活動を実施し、10 月 1 日以降 1 月 31 日までの取組状況として、参加者が延べ 246 名になります。子どもの成長に合わせた読書の働きかけができました。今後は、参加の拡大と内容の充実を図ります。

学校との連携は、学校や保育所等への団体貸付の利用促進を図り、10 月 1 日以降 1 月 31 日までの取組状況として、団体貸付を PR し、秋の読書週間に見学会を実施しました。現時点での成果として、学校単位で定期的な貸出が多くなりました。今後は、貸出のない学校にも啓発を行い貸出の利用増加を図ります。

ボランティア活動活性化事業は、ボランティア活動の活性化を図ります。ボランティア活動の活性化につながり 2 名の増員となり、今後もボランティアの増員と養成を図ります。

読書感想文コンクールは、小中学生を対象に読書感想文コンクールを実施しました。小中学生併せて 115 名の応募がありました。今後も、学力向上の一環として継続して取り組んでいきます。

蔵書整備事業は、蔵書の充実を図ります。10 月 1 日以降 1 月 31 日までの取組状況として、1,684 冊増加し、1 月末現在で、蔵書数は 159,644 冊となり、今後もバランスよく収集し、テーマを定め関係図書を収集し蔵書の充実を図ります。

以上が、重点施策 4 子どもの読書活動の推進の説明です。ご質問やご意見等ございましたらよろしくお願ひします。

河上市長

指標の設定の際に、言うべきことだったのかと反省しなければならいんですが、貸出利用者数の延べ人数は、本当の意味で利用者が増えているのかどうか分からない数字なので、次回は違う設定でお願いしたいと思います。子どもの実数で考えるべきでないかと思ひます。全体の数が伸びていれば、ある程度利用者数も伸びているんだろうなと思ひんですが、今の設定だと正確な把握ができないと思ひますので。

倉本教育長

市長がおっしゃるように、貸出利用者数の延べ人数は、実際に利用者が増えているのかどうか分からないです。なおかつ、この延べ人数は、熊野市内の数だけではございません。近隣の市町の利用者を含めた数字ですので、次の指標につきましては、再設定を行いたいと思ひます。

杉本社会教育課長

貸出利用者数の延べ人数の実態について、考えなければならないと思ひますので、来年度の指標は子どもの実数で設定したいと思ひ

ます。

倉本教育長 子どもの定義についても続けてお願いします。

杉本社会教育課長 1月31日現在の達成状況について、子どもの貸出利用数で、子どもの定義というものがございまして、17歳以下で各年齢別に合計を出して、8,294人となっております。

林総務課長 その他何かございませんか。

大久保委員 子どもたちに本を読んでもらうためには、大人が働きかけていくことが大事だと思います。熊野市でも保育所で外部の人を呼んでお話を開くなど進んでやってもらっているようですので、今後、多くの子どもたちに本を読んでもらうために、本の紹介をしていくという取組を教育委員会でやっていただけたらと思います。

河上市長 なかなか本に興味を持たない子どもに本を読んでもらうのは、難しいと思います。良いか悪いかは別として、学校で強制的に読ませられるような取組とか。例えば、読書感想文コンクールは昔は有無を言わず夏休みに本を読んで書いてくる、といったことがありました。たくさん本を強制的に読みなさいというのは、強権的なので、年に1回は読書感想文コンクールを実施し、課題として1冊読むようにしないといけないかなと思います。コンピュータゲームとかインターネットをする子どもが増えつつあるので、どこまで強制的に読ませるのかということはあるんですが、全然読ませることをやらなかったら、蔵書数を増やしても意味がないと思います。本に興味のある子どもにとってはいいのですが、課題は、本に関心のない子どもたちについて読んでもらうことが大切だと思いますので、これは教育委員会で一工夫していただく必要があるのかなと思います。

楠学校教育課長 中学校を中心に、朝のホームルームを活用し10分間、読書活動を行っております。昨年度、神上小中学校でビブリオバトルを実施しました。ビブリオバトルは、京都大学の学生が考案したと聞いています。各グループになって、自分の読みたい本を読んで、それをプレゼンし、グループの1位を決めるものです。今後、この取組も読書活動の一環として取り入れて読書の推進に繋げていきたいと考えております。

杉本社会教育課長 本に関心のない子どもたちに本を少しでも多く読んでもらえるよう、努力して参りたいと思います。図書ボランティアの方にも協力していただき、保育所や各学校で読み聞かせの取組みも進めたいと考えております。

林総務課長 次に、重点施策5生涯学習環境の整備に移りたいと思います。資料の13ページも合わせてご覧ください。指標として、評価が4.0以

上、アンケートの結果 4.8 であり現時点で達成をしております。重点施策の取組事業として、各種生涯学習講座は、多様な生涯学習機会を提供しており、受講者数も 10 月 1 日以降 1 月 31 日までで、1,183 名となり、多くの市民に学習の機会の提供をしました。今後も常に市民のニーズを把握する必要があります。

市民文化祭は、市民会館及び文化交流センターでの成果を披露する機会を提供。展示部門とステージ部門を開催し、多くの入場者がありました。今後も活動の場や機会を提供するなど市民意識の向上を図ります。

まちの人材活用事業は、知識や技能を持つ人材を登録・派遣し、地域の生涯活動に生かします。今後も様々な技術や知識を持った人材の登録を推進し、生涯学習の充実を図ります。

11 ページの、読書推進事業では、文学講座などを実施するとともに蔵書の充実を図ります。取組状況は、毎月 1 回の文学講座やテーマ展示等行うとともに、蔵書の計画的購入も図っています。成果としては、図書館利用者は増えており、今後も図書館の利用を促進し、読書の推進を図ります。

以上が、重点施策 5 生涯学習環境の整備の説明です。ご質問やご意見等ございましたらよろしくお願ひします。

河上市長

読書推進事業で「その勉強法であって？」のテーマで図書を集めて、これは面白いと思うんですけど、他にもいろんなことをやってもらっているんですが、知られていないのが残念です。これらを知らせることを考えないともったいないと思います。そちらの方に力を入れていただきたいと思います。

大久保委員

市長がおっしゃったように事業を知らせることも大事だと思うんですが、図書館の企画も工夫してやっていただけたらと思います。今年度から館長さんも置いていただきましたし、館長さんや司書さんが、他の市町の先進的な図書館を見て、どんなことを取り組んでいるのか勉強していただき、来年度は充実した事業を行っていただきたいと思います。

杉本社会教育課長

図書館につきましては、三重県下の図書館協議会もごございますので職員にも出席してもらおうよう館長と調整し、情報交換できるように進めたいと思います。

倉本教育長

図書館の事業でございますが、非常にバリエーション豊かにテーマ展示など行っております。テーマに添った利用者が、どれだけ参加してくれるか、どれだけ借りていただけるかという手立てを今一度考え直し、工夫して取り組んでいることが生きるように創意工夫をして参ります。

林総務課長

その他何かございませんか。

ないようですので、最後になりますが、12 ページの重点施策 6 生涯スポーツの普及と促進ですが、資料の 14 ページを合わせてご覧ください。指標として、週 1 回以上スポーツを楽しんでいる割合が 10% 以上、アンケートの結果 9.0% ということで現時点において達成はできておりません。重点施策の取組事業として、市民健康スポーツ祭の開催は、11 月 13 日山崎運動公園多目的グラウンドで、約 2,500 名が参加し開催されました。スポーツ祭を通じて交流を深めることができました。多くの市民が集まる唯一の意機会であることから、健康で生涯スポーツにつながるイベントにする必要があります。

総合型地域スポーツクラブの育成事業は、子どもから高齢者まで参加する地域スポーツクラブの育成を推進します。今後も指導者の育成など環境整備を図っていく必要があります。

13 ページの、ドリームベースボール開催事業は、元プロ野球選手から直接指導を受け、プロの技術を体験することができました。

スポーツ競技実施体制の構築事業は、平成 30 年度の「全国高等学校総合体育大会」・平成 33 年度の「国民体育大会」開催に向け準備会議等に参加しています。今後は、啓発活動を実施することで、市民の気運の醸成を図る必要があります。

以上が、重点施策 6 生涯スポーツの普及と促進の説明です。ご質問やご意見等ございましたらよろしくお願ひします。

林総務課長

1 の学力向上の推進から 6 の生涯スポーツの普及と促進までの全体を通してでも結構ですので、何かご質問やご意見等ありましたらよろしくお願ひしたいと思ひます。

河上市長

最後の生涯スポーツの普及のところ、確認なんです、健康・長寿課と連携は取れていますか。

杉本社会教育課長

健康・長寿課と紀和寿学園のスポーツ大会や他のイベントなどにも健康・長寿課の健康増進ポイントを使えるように調整しております。

河上市長

健康増進ポイントの取組は、特に高齢者の方々に運動ではなくても生涯学習も含めて、外に出て来てもらうことが健康に繋がるということなので。生涯スポーツの普及の点でいくと健康増進ポイントと連動できるのは、市民スポーツ祭だけですか。

杉本社会教育課長

はい。

河上市長

例えば、ユニカールなど地域で独自でやっているスポーツがあると思うんですが、それらは把握しているんですか。

杉本社会教育課長

今のところ、把握していません。

河上市長

指標で 10% 以上目指すということで、達成状況が 9% なんです、

政策手段と目的が少しズレがあるのではないかと。政策手段があまりにも狭いと思います。地域で独自でしているスポーツ団体の方たちと連携を取りながら、それを加速させるということも考えられるかなど。スポーツをする市民を増やすという意味では、地域でスポーツをしている方たちとの連携を考えた方が良いと思いますし、その中で一定年齢以上の方には健康・長寿課とも連携をして健康増進ポイントの管理を教育委員会としても応援してもらおうとか、もう少し総合的に考えてもらう方が良いのではないかと思います。

杉本社会教育課長 地域で独自でスポーツを行っている方たちについて、把握できていないので、今後、その方たちと連携を取れるように、また健康増進ポイントについて、取り込めるものは健康・長寿課と調整しながら進めて行くよう努力します。申し遅れましたが、総合型地域スポーツクラブについては、健康増進ポイントがもらえることになっております。

林総務課長 全体を通してでも結構ですので、他に何かございませんでしょうか。

大久保委員 学力向上に関してですが、いろいろな事業をしていただいて各学校の先生方の意識の変化が見られるように思います。学力は、学校でいかに子どもに興味をもたせるような良い授業をするかという工夫と同時に家庭の教育というのも大事だと思います。家庭との連携も含めて、学力向上の取組を深めて行って欲しいと思います。

楠学校教育課長 熊野市では、学力向上の推進ということで、まずは言語活動の充実、「めあて」「ふりかえり」のある授業の徹底で、「めあて」「ふりかえり」の部分は、めざす姿にもありますように、かなり各学校に浸透してきたかと思われまます。家庭学習の充実については、各学校においても工夫をしているところです。家庭学習の手引き等も作成していますが、やはり、課題が残ります。家庭学習について、宿題または学習なしでは学力向上と言えない部分がありますので、来年度も引き続き保護者と連携して取り組んでいきたいと考えております。

倉本教育長 家庭の協力というのは、非常に大事だと認識しております。どう家庭と連携して行くかという、10年・20年前と違った工夫が必要となっている状況です。ですので、子どもが家に帰って、ノートと教科書を開いて勉強できる意欲も一緒につけていかなければならないのかなと思います。

林総務課長 ありがとうございます。その他何かございませんか。

ないようですので、事項書の2(2)その他でございますが、各委員の皆様から何かございませんか。

委員 無し。

林総務課長 全体を通して、ご意見等ございませんでしょうか。

全員 無し。

林総務課長 事務局からですが、今回で今年度の会議は終了です。29年度は早々に開催を考えております。

また、本日は、委員の皆様からいろいろなご意見等を頂きました。これからの事業の参考にしていきたいと考えておりますので、これからもよろしくお願いいたします。

本日の事項についてすべて終了となりましたので、平成28年度第3回熊野市総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。